2023年9月24日礼拝説教要約

ローマ人への手紙に聴く⑱

# 「いのちの御霊によって」

（ローマ8・1～17）

## 一、日々の生活と「気分」

私は五年弱、一般の会社に勤めました。よく耳にしたことばは、「仕事をする上で大切なのは、その日の気分である」ということでした。一見して、大の大人が子供染みたことを語っているように感じられるかも知れませんが、それが本音なのだと思います。気分が乗らなければ一所懸命に仕事をする気にもなりませんし、したがって良い仕事はできません。反対に、気分が良ければ良い仕事ができるわけです。

では、主イエス・キリストを信じるなら、悲しみも嘆きも、不安も気分の落ち込みも、無くなってしまうのでしょうか。そんなことはないと考えます。感情はヒトを始め、動物にもあります。ただし人（アダム）は、神のかたちに似せて創造されたので、今は苦しくても将来に希望を持てるなら生きて行く力が湧き上がってまいりますし、反対に今は不自由なく生活ができていても将来に希望を持てなくなるなら、打算的な人間になるか、あるいは自死を願うようになることもあるでしょう。これが、神が創造された私共の姿であると、私は受け止めています。

## 二、私共が賜った「いのち」

8章1節をご覧ください。**〈こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。〉**とパウロは語りました。このことばと、3章23節を比べてみていただきたいです。**〈すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、〉**です。**〈すべての人〉**とは、異邦人もユダヤ人も、ギリシア人も未開の人も（ローマ1・14）の意味です。この世にいのちを享けた人、すべてです。そのすべての人が「罪を犯している」、言い方を変えるなら、罪の下にあって、本来の人（アダム）のかたちではないということです。ですが8章1節によれば、**〈今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決して（ない）〉**のです。**〈今や〉**とは、終わりの時代にあって、神がキリストを救い主として遣わされた「今」の意味です。そういうわけで、キリスト・イエスにある者は、神が創造された、本来のあるべき人（アダム）の姿に回復して行くのです。どのようにしてでしょうか。2節です。**〈なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです。〉**です。ここに**〈キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が〉**とありますが、「律法」も「原理」も「法則」も、元のことばは「ノモス」でして、パウロ先生は**〈いのちの御霊の律法〉**と**〈罪と死の律法〉**とを掛けて語りました。では、**〈いのちの御霊の律法〉**とは何なのでしょうか。主イエス・キリストを信じますと、私たちの罪が赦されます。罪とは、私共人間の中心軸が神の御意思から外れていることです。本来のあるべき姿から外れていることです。こうして、心に思い浮かぶことが、ことごとく神の御意思から外れている状態です。「へり下って、神の御意思を行う人間になろう」と志したとしても、それによって罪の状態から抜け出せるような、そんなに生やさしいものではありません。人が行う「善いこと」は、神のレベルに達することはできません。そういうわけで、努力が報われるのは、神がくださった恵みと祝福、という土台があってのことです。主イエス・キリストを信じる者が罪に定められることはありません。なぜならそれは、すなわちキリストの福音は、神によってもたらされたわざだからです。

## 三、「肉」に従って生きない

主イエス・キリストを信じる者は、信じたときに、神の御霊がその人のうちに住み、キリストの御霊を持つことになります。これは9節にありますように、たしかなことです。ところが、気をつけなければならないことがあります。肉に従って生きてしまうという間違いです。と、こんなことを申しますと「御霊に導かれている者が、どうして肉に従って生きるようになるのか」と、疑問に思われるかもしれません。12節、13節をご覧ください。**〈ですから、兄弟たちよ、私たちには義務があります。肉に従って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬことになります。しかし、もし御霊によってからだの行いを殺すなら、あなたがたは生きます。〉**と語られています。主イエス・キリストを信じますと、罪から解放されて、いのちの御霊に生かされるようになります。そして全員ではないにしろ、熱心な教会生活、信仰生活を送るようになります。ところが、この「熱心さ」がクセモノになります。「えっ？」と思われるかもしれません。と言いますのは、当初は御霊に導かれて熱心になっても、徐々に御霊に導かれない熱心さになって行くこともあるからです。例えば、「私は、毎週礼拝を献げています。私は、収入の十分の一を献げています」と。そうしますと、場合によっては「私はおこなっている」という熱心さになり、「私はしなければならない」という熱心さが頭をもたげてまいります。これが、13節で語られている**〈もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬことになります〉**の意味かと思います。